



フジコーの光触媒テクノロジー
JAXA共同研究

宇宙環境下での
空間浄化


2016.08.27

光触媒被膜


任務完了

フジコー JAXA

©NASA

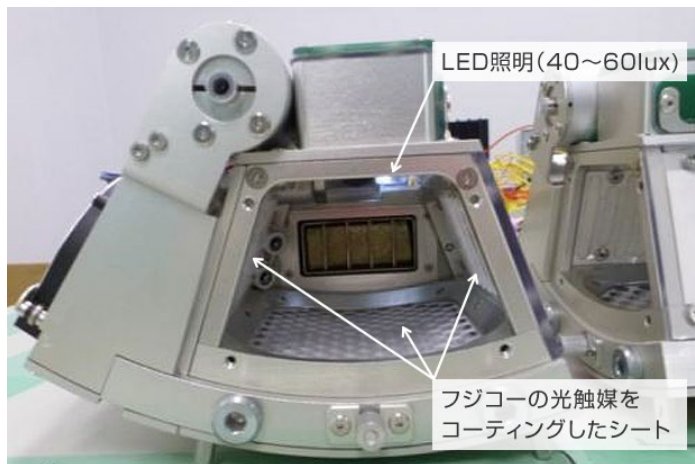


「きぼう」日本実験棟で長期飼育されたマウス12匹が、全数健康な状態で米国カリフォルニア沖に帰還いたしました。長期間飼育後の全数生存での帰還は世界初の快挙となります。株式会社フジコーは国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)からの依頼で、宇宙での飼育ケージ専用の光触媒被膜で<消臭><殺菌>及び<有毒ガス除去>に関する技術力をさせて頂きました。

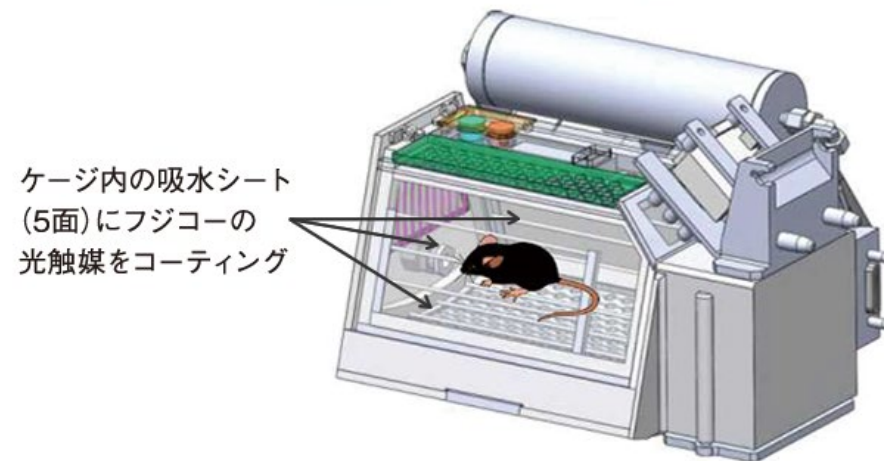


JAXAがフジコー光触媒を選んだ理由は、

- ① フジコーしか、60 LUX以下のLED照明で光触媒反応できるものがない。
- ② フジコー製品は抗菌力が強い。



マウス飼育ケージのイメージ図



「宇宙マウス」2世誕生 = 大西さん飼育、帰還後に - JAXA

時事通信 10月14日 (金) 17時48分

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) は14日までに、国際宇宙ステーション (ISS) の日本実験棟「きぼう」で飼育され帰還したマウスの精子から、子マウスが生まれたと発表した。今後、無重力などの宇宙環境で生じた変化が子世代にも伝わるかなどを調べる。

7月からISSに滞在中の大西卓哉さん (40) らが、きぼう内の装置で35日間飼育した雄マウス12匹は8月末、地球に無事帰還。JAXAと筑波大、大阪大の研究チームはマウスから採取した精子を人工授精させ、9月28日に子マウスが生まれた。

帰還したマウスは、脚の筋肉量減少など宇宙滞在の影響とみられる身体機能低下の兆候がみられた。研究チームは宇宙に滞在したマウスの遺伝子解析などを進めるとともに、宇宙環境の影響が子世代にも受け継がれているかを詳しく調べる。